令和元年度　社会教育委員　第５回会議

令和元年 12 月４日（水）
19：00～20：28
プラザおおるり第１会議室

【出席者】

社会教育委員：田代保廣、大石絵美、八木　博、熊谷紀男、鈴木美香、
萩原淑恵、（欠席４人）

教育委員会社会教育課：南條社会教育課長、岡部課長補佐兼青少年係長
佐野社会教育係長、鈴木玲子青少年係嘱託員

【議　事】

１　開会　　19:00

インフルエンザ等で４人が欠席したが、出席者数が成立要件に達していることを確認した後、配布物の確認を行なった。

２　社会教育課長あいさつ

・「家庭教育のあり方」の提言を早く出したいところだが、前半は世代毎検討を行った。顔ぶれが変わったところで、テーマ別に別の視座から検討してみようというところで来ている。来年度に入ったところで皆さんに考えていただいて、２つの構成で有益な提言ができればと考えている。
・本日は多々の報告事項を話した後、効率よく引き続きのテーマを話していただきたい。

３　議長あいさつ

社会教育委員を代表し、田代議長があいさつをした。要旨は以下のとおり。

・私事だが、11 月末を以って民生委員を退任した。
・11 月になって白内障を患っているが、自分が思っていた症状と違う。セカンド･オピニオンを取ったところ、来週手術になった。はっきり見えるようになることに期待する。
・前委員長から「その後提言はどうなったか」と聞かれた。現教育長が任期中にはなんとかしたいが。
・どうしても採り上げなくてはいけないことに「読解力」がある。ＡＩに負けないようにと考える。報道でも日本人の読解力が低下していると指摘している。家庭教育を考える上でも入れるべきなのか、と思うようになった。

４　報告

①　関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会　資料１

（議長）　２人出席。私は３回目の参加だが、開催県は非常に苦労している。その割に印象に残らない内容だと感じている。

基調講演は人生１００年時代をテーマにしたもの。他にはシンポジウムと文化祭。シンポジウムは、学びと活動の循環に関する内容。

シンポジウムは、コーディネーターがシンポジストを上手く生かすことができていない印象があった。どうまとまったのかがわからなかった。シンポジウムはコーディネーター次第？と感じた。

第４分科会に参加した。人材発掘をテーマに、ＫＰＴ法（Keep、Problem、Try）をコーディネーターが紹介してくれたが、あまり上手くまとまっていかなかった。「強制はしない」だったように思うが、結論や方向性が出なかったように感じた。

全体での参加者は1,000人程度。静岡県から40人位が参加した。

②　中部地区社会教育委員合同研修会　資料２

（委員）　高齢者の朗読劇（アトラクション）は結構聞かせるレベルで、努力の跡が見えた。

ＪＡＸＡの桜庭さんによる講演会では、内容が多岐に亘った。「社会教育委員に求められることについては、これを読んで」とのこと。アクティブ･ラーニングとプログラミングについて触れていたと思う。

内容がかなり豊富で、皆がわかったか？と思った。

情報交換会も有意義であった。

（議長）島田市から５人の功労表彰があった。そのうち１人について、印刷ミスがあった。

③　生涯学習　ワールド・カフェ　資料３

（委員）　生涯学習推進協議会が作った大綱で、実際に何ができるのか、具体的に何をやったらよいのか…という研修だった。何かをまとめる、という内容ではなかった。

ライフ･ステージが、島田では５つ。それぞれの区分の人にどんな内容をどうやって伝えるのか、非常に効果的な広報や周知活動はどうやったらできるのかというテーマで話し合いをした。

参加者が、協議会委員、２市の社会教育委員以外に若い人もいた。

島田商業高校の生徒、常葉大学の学生。社会教育課はベテランばかりなのかと思っていたが、担当に若い人たちが大勢いた。

壮年期を担当したが、それぞれの年代で視点が異なっていて教えられたことが多くあった。自分としては健康とかボランティアだったが、高校生か

らはＳＮＳを壮年期の人にも知ってもらって便利に使ってもらいたいとの意見。「そういう意見もあったのか」と、世界が広がった気がした。

５　連絡事項

①　令和２年島田市成人式　通知１

（岡部課長補佐兼青少年係長）　１月 12 日（日）13:30 開始で、ローズアリーナで行う。お願いしたい業務は受付であり、11:45 集合、12:30 開始でお願いしたい。

12/12 までに協力の有無について御報告をお願いしたい。協力いただける方には、個別に資料を郵送。

②　県社教連　社会教育関係者研修会　通知２

（佐野社会教育係長）　一昨年までは委員長対象の研修だった。1 月 22 日開催で、会場は袋井市総合センターで、磐田市の活動が題材。磐田市の社会教育委員は市長部局に属していることが特徴。

出欠等の御連絡を近々お願いする。公用車での送迎予定もあり、利用の有無についても御回答をお願いしたい。

６　議題　令和元年度検討テーマ「家庭教育の在り方」

【議長】

諮問テーマ「家庭教育の在り方」について、引き続き委員から提出されたレポートの説明をいただく。

※以降、南條社会教育課長が進行。

①前回までの振り返り

（佐野係長）　「自死」が増えている理由のひとつとして、学校や家庭での教育があるのではないか。

学校でも、家庭でも「死」と向き合う機会がない。タブーになっているからか。

が、現代では「死」が軽く扱われ、例えばゲームのようなヴァーチャルな世界がある。扱い方、考え方に深みがない。

一方、「死」は決して暗い側面ばかりを持ったものではない。キリスト教のような考え方もあり、向き合い方の問題。

家庭教育でできることは、身近な人の臨終に親子で立ち会う、お悔やみに親子で出かける、親子がペットと暮らす　など。

②八木委員によるレポート説明

（八木委員）地球温暖化の影響で、各地で災害が頻発している。観測史上例を見ないほど気象災害が多く見られる。人類は、地球温暖化によって「気候の緊急事態」に直面しているとも言える。気候システムが温暖化しているが、その原因は人間にある。

各地の豪雨は、地球温暖化による水蒸気の増加であることがわかっている。地球温暖化を加速させているのは、化石燃料の過剰消費と森林伐採等による自然破壊である。エネルギーの消費によって、二酸化炭素等の温室効果ガスが増えて、気温が上昇し、水蒸気量が増加している。それが集中豪雨や台風の大型化に繋がっている。

日本でも、地球温暖化による気候変動の影響が、各地のいろいろな分野で表れている。異常気象や災害の増加、熱中症や感染症の拡大、生態系の変化や農作物への被害等である。人間が環境に与える影響がこのところ急激に増大している。このままでは、経済や社会に積極的な影響が生じる。

世界中の科学者が「気候の緊急事態宣言」をしている。二酸化炭素の排出量が世界で５位という私達の国では、為政者を始め、企業も、研究者も、メディアにしても、あまりにも危機管理に欠けている。気候変動の影響を最も受け易いのは、若い世代である。若ければ若いほど「奪われる未来」は大きくなる。私達の世代が若い世代に、二酸化炭素を押し付けてしまった。そういう主旨の罪悪感で胸が塞がる。

ここに来て、世界の若者達が一斉に気候マーチを繰り広げている。災害のニュースを見て、ただ「お気の毒」というだけではなく、身近な家庭教育の中で、自然災害の原因について、地球温暖化を緩和していく努力や、気候変動に適応していく仕組みについて、「私達に何ができるのか」グローバルに考えて、ローカルに実践する。そうするためにも、家庭教育の一環として取り組んでいく必要があるのではないかと思い、提案をした。

環境省では、昨年「家庭でできる 10 の温暖化対策」を策定したが、なかなか徹底しない。そんなことを提案した。

③委員間討議

（南條課長）今回は、社会課題に対し、基本的な教育の最小単位でもある家庭での教育が大切だという御提案である。

（委員）二酸化炭素が原因であるという説が強いが、最近違う説が出始めたということを聞いている。ただし、八木委員の提起した内容については、やる必要があるのではないかと思っている。

化石燃料の消費については、非常に増えているということがある。また、

プラスチックの問題もある。その中で、地球温暖化についてどういうことができるか、また、化石燃料について、今享受していることを放棄してまで説得できるのか？ということがある。どういう風に誘導していくのか、どういう情報をどういう風に認知させていくのか。結構難しい問題である。

特に、我々日本人は、現実にぶち当たらないと対応できないという感じがする。ただし、黙っているのではなくて、語り続けていくことは重要であると認識している。それをどういう風にやっていくのか。

今の日本では、若い人の活力がほとんどなくなってしまった。学生がデモをするとか。実際にはやっているのかもしれないが、一般にはあまり認識されていない。日本の中核となるべき人たちが動いていないので、どうしたらよいのだろうか、というところで手をあぐねている。

地域では町内会が軸になっている。その中で、温暖化はほとんど話されない。スケジュールが厳しく、市から呼びかけがあればやるかもしれないけれども、というような状況である。実際には、僕が何を言っても全然通らない。

（南條課長）　生活の身近な関心事から始め、その人に一番効く人に効くのかな、と。例えばゴミの分別など。島田市ではゴミの減量をやらなくなってしまったが。

（委員）　町内会で古紙回収をやっている。月に１回の実施で年間３０万円ぐらいになる。しかし、高齢者には体力的に厳しい。

町内会長が言うには「お金の問題ではない。月に１回、複数の班が集まる。そこでのコミュニケーションが非常に重要。」とのこと。

（委員）　八木委員の報告書にある「丁寧に暮らす生き方」というのがキーワードでは。環境問題を家庭に絞っていくと、「丁寧にやっていく」ことがそのひとつではと思う。そうすると、人の付き合いも丁寧になってくるだろうし、モノに対しても「丁寧に使う」とか「使い切る」。そうすると、モノに対する見方とか見通しとかいうものが出てくるのではないか。

その辺りに時間をかけられない現状がある。忙しかったり、簡単に済ませてしまったりすると、そこからゴミが出る。自分の生活を見ると、忙しくてモノを買ってきたときに、必ずプラスチックが出てくる。時間があるときに丁寧に準備をすると、そういったゴミ類は減らすことができる。「丁寧に暮らす」ということを家庭で実践していくと、そこに繋がっていくのでは。

ただし受け継がれていないので、もしかすると「古紙をお金に替える」のようなことが無いと難しいかもしれない。

（委員）　そうやって古紙を交換する場所があると、そこに持っていくために「人が手間をかける」。そのことが大事なのでは。

かつてはこういう教育が学校であった。「使い切る」「大切に使う」「捨てない」というようなことが総合学習の時間であったような気がする。そのため、子どもに逆に教えられたことがあった。今は、親がそういうことを学ぶ機会を持てないのが、そうした「古紙をお金に替える」ことなどを家族で話してみると、「水道を出しっ放しにしない」とか、小さなことから「いろいろなものを大事に使う」ということを話し合っていくことは、とても大事なことなのだろう。

前回の「自死」、今回のこと、熊谷先生が書いてくださった「語りかけることの重要性」は、リンクしているのではないかと思う。

こうしたことを家の中で会話できるということが大事。どれにしてもひとりでできることではないが、やっていくうちに徐々に効果を上げていくものでは。

（委員）　女性は共感したい。男性は論理的に解決したい。家族でいても会議をするということはあまりないが、家族が皆平等に声を発することができる場を作ることが、たぶん会話になっていく一歩なのだろう。

「丁寧に生きる」ということは、生活の中に余裕とか余白がないとできない。それがたぶん会話に繋がる。ワークライフ・バランスなどの取り組みも、たぶん余裕や余白を生むため。時間に追われていたら、恐らく効率の世界にいってしまうが、「効率化を追っていった結果ではない、非効率のよさ」のようなものが家での会話に繋がる。家の中でやっていても、自分の地域とか企業とかでやっていないとやらない。結局は全部繋がっているのはないか。

（委員）　為政者や国がやるべきものもあるし、科学者がエビデンスを出すべきものもある。それを受けて家庭がある。

丁寧に生きる、とはよい言葉だ。

（八木委員）　生活の中にコンビニが無くてはならないものがある。まさしくコンビニエンス。便利さが蔓延っている。なんでも便利ならよい、という訳ではない。

（南條課長）　最近揺り戻しがある。コンビニの時短や、スーパーの元旦休みなど。香港の動きも関連しているのか。共通テストに関する文科省の発言などに対しても、ツイッターなどで高校生が声を上げている。それに対して親や大人がどう動くのか。

家庭の中の若者、青少年が声を上げていくことについて、皆さんはどう思われるか。

（委員）　選挙の投票率は若者が低いため、声が為政者に届かない。若いうちから意識を養わないと、どうしてよいのかわからない。

（委員）　　悲しみを超えた怒りという感情が最近の若者を象徴している。主体的にものごとを捕らえている象徴なのではないか。

ストライキをすることがよいのではないが、与えられて当たり前というものから主体的に移ってきたのでは。

（委員）　　僕等が若かったころも投票率が低かったと思うが、加齢につれて高くなってきたと思う。高校生のときは「俺ひとりがやったって変わらない」だった。大学生のときは、全学連は投票に行っていたが、一般の学生が行かなかった。

（委員）　　当時は、とりあえず困らなかった。今の若者は…。

例えば、高齢者の要求はどんどん通る。後期高齢者の医療費も１割を２割にしようとしたら大反対である。ところが、そういうことで困るのは若者、現役世代である。だからこそ、若者は声を上げなくてはならないのではないか。我々が若かったときは、そういう社会ではなかった。

（南條課長）　　若者は数が少ないから危機感があるのでは。

（委員）　　我々の前の世代までは祖父母に育てられた子どもも多かった。しかし、徐々にそれが排除されてしまった。最近は「嫁・姑問題」も聞かなくなった。今は教育権が父母になってしまったので、それが非常に大きく、大変になってしまった。祖父母が父兄会に出て学校の話を聞いてくる、というのがあった。しかし、今は全てを親がやらなくてはならなくなり、家庭教育の実質的な空洞化をもたらしたと思う。

（南條課長）　　硬直化してしまったと思う。組織と同じで、数を減らしたから、ワンオペ育児みたいなものが一般化してしまった。

親がなんでもやらなくてはならなくなった。昔は集団の中で、ナナメの関係とかでできていた。

（委員）　　自分の場合女房が全てやっていたが、２４時間子どもに対応していなければならなかった。

（南條課長）　　「母親の孤立化」が、今、社会教育課でも一番問題になっている。できるだけたくさん応援して、できるだけ産んでもらうことが大事になっている。

（委員）　　息子を見ていると、僕とそんなに労働力が変わらないのに、それにプラスして家事をやっているように見える。あれでは潰れてしまう。

（委員）　　男性も大変になっている。

多世代で子育てをしていたころは、子育ての経験をしてきた祖父母が近くにいてくれたことで、助言や手伝いがたくさんあったが、今はなくなってきている。器用な親は、上手に祖父母とのつながりをもってできているが、それができない状況の中にいる人たちにとっては本当に苦しいと思う。そうい

うところが厳しいので、家庭の中の会話なんてとんでもない、という状態なのでは。

※　　提言は、各テーマにより章立てのようなスタイルで考えたい。
※　「生涯学習推進大綱」のようになれば見やすいが、多分県教育委員会の提言書のような感じになるのでは。前半の世代別の部分は図が描けるが、今やっている後半は主旨と論議の内容など。
※　　次回は熊谷委員のレポート「語りかけることの重要性」を扱う。

７　その他
①　島田市子ども・若者支援地域協議会講演会ほか
（岡部補佐兼青少年係長）　前回チラシを配布した講演会が来週１２月１２日に行われる。演題は「誰もが生きやすい社会を作るために　自閉症スペクトラムの特性を持つ人への合理的配慮を考える」で、講師は静岡県自閉症協会の津田明雄会長。

②　第５回会議　　令和２年　２月１２日（水）　決定

８　閉会　　20 時 28 分ごろ終了